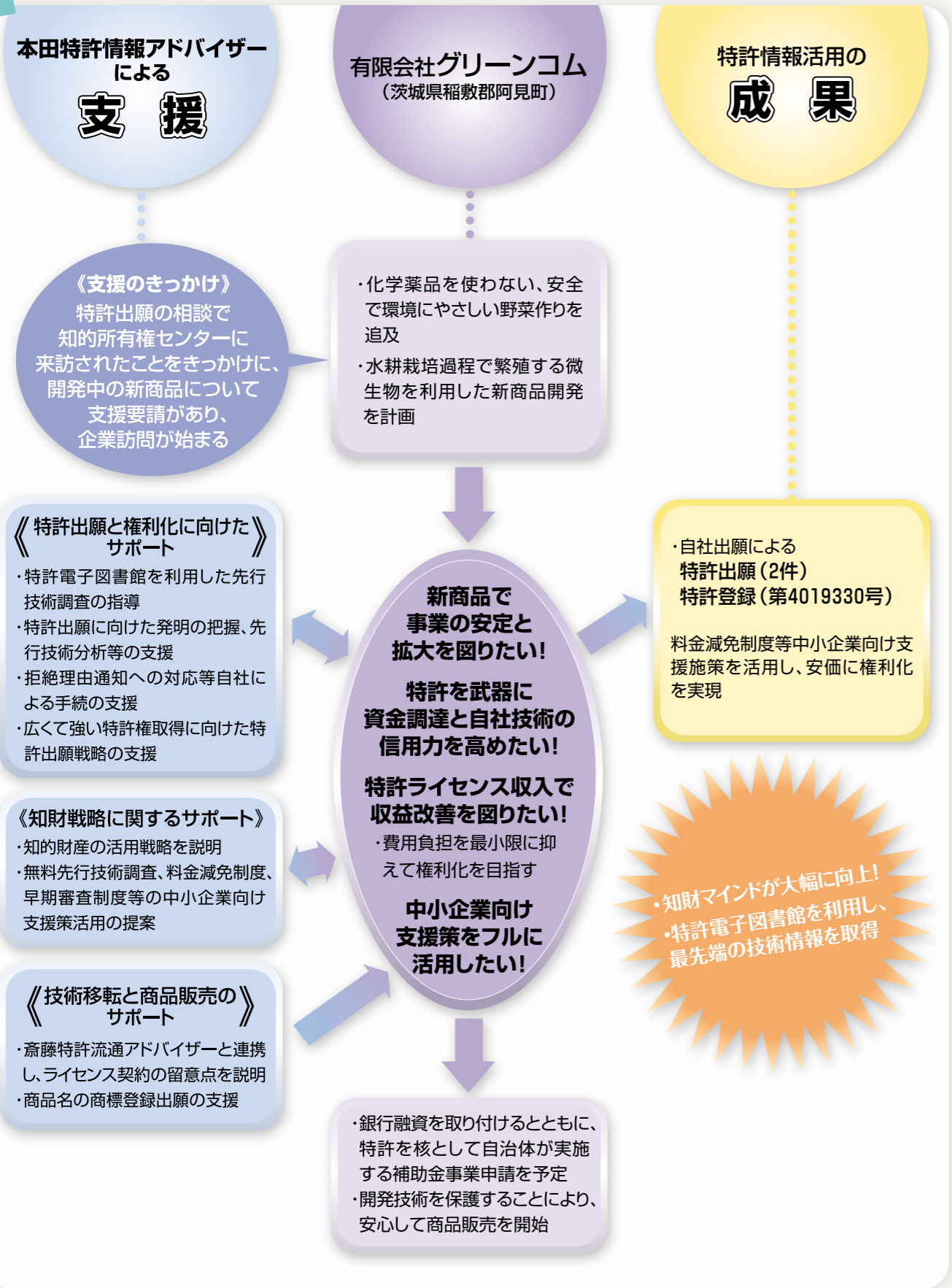


特許をビジネス拡大の武器に!

野菜作りから生まれた消臭剤の商品化支援

Case 1



本田 卓 (茨城県) 特許情報活用支援アドバイザーの一言



石河さんに初めてお会いした時、水耕栽培を手がける専門家としての熱い思いを語られていたのが印象的でした。特許に関する知識はお持ちでしたが、一から勉強し直したいとの希望があり、スキルアップも兼ねてサポートを開始しました。

特許の相談に来られる方の中には、出願目的にまで思いが至らない方が少なからずいらっしゃいます。その点、石河さんは「目的は資金調達とライセンス」と明確でした。

立案したサポートプログラムは、「知財活用戦略」、「中小企業向け支援策活用」、「審査対応を見込んだ明細書作成」などを軸に据えました。非常に熱心で、短期間に出願と特許取得を達成されました。

開発された技術は、微生物を活用した栽培システム及び微生物の増殖と利用に関するものです。栽培システムは既に特許を取得されています。この技術を用いると、化学薬品を使用せずに安全な野菜を1年を通して高い収穫量で栽培でき、特に冬場の栽培が難しい空芯菜などに好適とのことです。食の安全への関心が高まる中、その発展が注目されます。微生物の増殖に関する技術は特許出願され、消臭剤として商品販売されています。消臭効果だけでなく、植物の活力回復効果もあるとのこと、まさに人と環境にやさしい商品と言えます。

企業からの一言

弊社は、水耕栽培を野菜生産現場に活用することを目指し、問題点の解決に精力的に取り組んできました。

しかし、技術開発投資が企業収益の悪化を招いたため、改善策として、特許取得により資金調達と開発技術の保全を図ろうと考えました。とはいえ、費用負担は最小限に抑えなければならず、茨城県知的所有権センターを訪問して特許出願の相談にのってもらいました。

その後、本田特許情報アドバイザーに支援をお願いし、特許について一から勉強し直すことにしました。この指導を通して、知財活用の重要性を再認識するとともに、「特許情報は技術アイデアの宝庫であり、良き助言者でもある」ことを学びました。

今回、特許出願して販売を開始した商品は、既に取得した特許技術で野菜を栽培している中で、偶然見つけた現象を基に開発したものです。総合的な支援のおかげで、短期間で権利に守られた商品販売に漕ぎ着けることができました。今後も知財を有効に活用して収益力向上につなげたいと思います。

支援先企業の概要

会社名 **有限会社グリーンコム**

■住所 茨城県稲敷郡阿見町荒川本郷 ■設立 2000年 ■資本金 300万円 ■代表取締役 石河 義孝
■ホームページ <http://www.green-com.co.jp>

野菜の水耕栽培事業を手掛ける。安全・安心な野菜作りをモットーに、技術開発に注力。微生物利用を技術の中核に据え、関連製品の製造・販売に積極的に取り組んでいる。

この支援によって開発・販売された商品

商品名「CALM/カーム」

概要

本商品は、野菜作りから生まれた、光合成細菌を主体とする消臭剤です。生ごみなどから発生する悪臭や有毒ガスの抑止、パイプのぬめり除去などに効果があるほか、植物の生育促進にも効果があります。

特徴

無農薬で元気な野菜を作るために欠かせない有用微生物を培養・抽出した、人と環境にやさしい微生物生菌剤です。

